



4音の語彙：かみなり、こうずい、すずしい、あめふり

④音の数を考えながら、組み合わせて5・7・5を作ってみます。

そのときに、音の数を合わせるために助詞「に、の、へ、よ、まで、から」などを使ったり、動詞や形容詞の形を変えたりするといいでしょう。音の数を合わせる場合、5・7・5のマスにひらがなで書き込むと数えやすくなります。

| | | | | | | |
|--|--|--|--|--|--|--|
| | | | | | | |
| | | | | | | |
| | | | | | | |

たとえば次のような俳句ができるでしょう。

洪水で 町の車も 川のワニ
 こうずい まち くるま かわ
 あついで かみなりがきて すずしいね
 こうずい まち くるま かわ
 上からも 下からも降る 午後の雨
 うえ した から ふる ごご あめ



ただし、次の句のように、1、2音多かたり少なかつたりしても、意味が分かればだいじょうぶです。

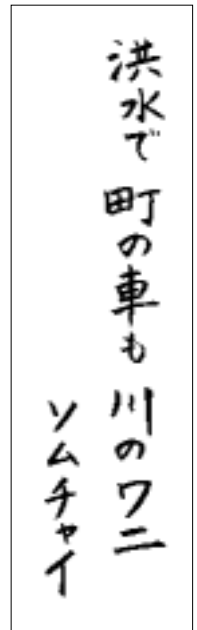
雨季になり 雨がふって(6) お米ができる(7)

⑤自分で気に入った俳句ができたなら、細長い紙(短冊)に書いてみましょう。もしあれば、細い筆で書くと本格的な雰囲気がでて楽しめます。みんなで短冊を壁に飾って、お互いの作品を楽しみましょう。

初めは難しく感じるかもしれませんが、通勤や通学を外を歩いているとき、友達と遊んでいて楽しいとき、おいしいものを食べたとき、きれいな景色を見たときなど

に、俳句を作ればいいのです。日本には四季があって、その季節らしい俳句を大切にしますが、四季のない国でも、雨の降る季節と雨の降らない季節の違いや年中行事の様子などで1年間の流れや変化が感じられます。それらを上手に取り入れて自分の気持ちを自由に俳句にしてみてください。

俳句作りは日本語のリズム感を身に付けるのに大変役に立ちます。また、そういった日本語の勉強に役立つだけではなく、俳句を作ることによって、自分の生活をもう一度見なおして新しい発見ができるかもしれません。



たんざく例

俳句でカルタをつくりましょう

生徒の作品がたくさん集まったら、カルタのように遊ぶこともできます。2枚のカードに同じ俳句を書きます。一組を机の上にはばばらに並べ、もう一組を一人が一句ずつ読んでいきます。他の人はその俳句のカードを探して取るゲームです。最後にたくさんのカードを取った人が勝ちです。

最近は海外でも、それぞれの国の言葉で、そのリズムを生かしながら、俳句が作られています。みなさんのクラスでも、ぜひ日本語で俳句を作ってみてください。そして、おもしろい作品ができれば、このコーナーまで送ってください。

参考文献

1. 池田純一著(1990)『授業に使える言葉遊び4』俳句・短歌づくり遊び 明治図書出版
2. 小林清之介(1993)『まんがで学習 やさしくてよくわかる 俳句の作り方』あかね書房
3. 日本航空広報部編(1988)『俳句の国の天使たち』あすか書房
4. 日航財団編(1991)『地球歳時記'90』学生社

このコーナーの担当者：古川嘉子、北村武士(日本語国際センター専任講師)

読者の皆さんのアイデア、成功例、失敗談などをお寄せください。

